

2017年4月15日(土)

映画「恋とさよならとハワイ」東京・シネマート新宿 公開初日舞台挨拶レポート

事前オンライン予約の受付数時間後には全席完売となり、急遽立ち見券が発売されるほどの盛況ぶりを見せた公開初日。

本編上映後、まつむらしんご監督、主演の綾乃彩、田村健太郎、加藤葵、亀田梨紗、篠原彩、福永朱梨、中田麦平の8人がステージに登場すると、会場を埋め尽くした観客からは、温かい拍手が贈られた。



左から、加藤葵、まつむらしんご監督、綾乃彩、田村健太郎、亀田梨紗、篠原彩、福永朱梨、中田麦平（敬称略）

まつむらしんご（監督・脚本）



この映画は、企画から2年間かけて、今日の日を目標にやってきました。もうなんとも言えない幸せな気分です。ほんとにどうもありがとうございました。

本当に少ない人数で作った映画ですが、少ない人数だからこそ、一人一人が、愛情と時間と持てる力のすべてを出しきって作った映画です。一人でも多くの人に観ていただきたいと心から思っていますので、どうか皆様、広めていただければありがたいなと思います。今日はどうもありがとうございました

綾乃彩（深町リンコ役）



本当にこんなに遅い時間に、たくさんの方が集まってくださるとは思ってなくて…（感極まって涙ぐむ）。なんかごめんなさい。泣くつもりなかったのに…。立見の方も90分も立って観てくださって、本当にありがとうございます。私にとってこの作品は初主演映画でもあるので、撮影中もそうなんですけど、撮影が終わってからも、ずっとこの日を迎えるのをすごく楽しみにしていたし、すごく緊張していたので、こうやってたくさんの方に観ていただけたのは嬉しいことになって、幸せを噛みしめています。本当に今日はありがとうございました。

田村健太郎（青柳イサム役）



イサムという何も自分で決められない男を演じました。観てもらった通り、彼女に決断のお膳立てをしてもらって、最終的に彼女に決めてもらうという、ほんとに自分を見ているようで心苦しいお芝居でしたけども、こうやってお客様に観てもらって、ちょっと報われたかなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

加藤葵（蓮田カスミ役）



カスミという、イサムさんに一途に真っすぐに恋をする役を演じさせていただきました。この作品は私にとって、とてもやわらかくて、あったかい宝物なので、皆様と共有できたことがとても嬉しいです。今日はありがとうございます。

亀田梨紗（柴崎トモミ役）



映画の中では、ハワイでどうしてもフラダンスを踊りたかったトモミ役でした。あの劇中のフラダンスは、ほんとに初めてで。私と篠原彩ちゃんと綾乃彩ちゃんと3人で、レッスンを数時間だけさせていただいて、次の日から腰が筋肉痛になったことをよく覚えています。遅いお時間にこの作品のために足を運んでいただきまして、立見のお客様にも入っていただき、ほんとにほんとに嬉しいです。ありがとうございます。

篠原彩（川田マキ役）



映画の中で、おにぎりとラーメンを食べていたマキ役をやらせていただきました。本日はご来場、誠にありがとうございました。私にとっては初めての映像のお仕事で、すごく楽しく撮影させていただいたこの映画が、こうして皆さんに観てもらえて、とっても嬉しいです。今日は本当にありがとうございました。

福永朱梨（深町ミカコ役）



リンコの妹役のミカコをやらせていただきました。（綾乃の方を見て）お姉ちゃん、泣いちゃったけど、大丈夫ですか？（笑）こんなにいっぱい、ぎゅうぎゅうにお客様が観てくださって、すごく嬉しいです。緊張してあまり前が見れないんですけど、今日はたくさんの方に観ていただいて、ありがとうございました。

中田麦平（内藤タイチ役）



こんばんは。どうも。（一番端っこのため）これ、照明ちゃんと当たってますかね？（笑）どうしても舞台やってるんで、自分が照明の中に入れてるか気になっちゃって（笑）。あの、僕、たぶんほんと、こういう場に立つ側人間じゃないというか。別に犯罪をしてるとか、やましいことがあるわけじゃないんですけど（笑）。卑屈というか、まあ、そういう人間なんで。でも、今日、ほんとにこうやって、たくさんのお客様の前に立てて、光栄です。ありがとうございました。

その後、まつむら監督と出演者は、司会の島敏光から「撮影中の思い出」をたずねられる。

「もしかしら台本にはないけど、急遽キスシーンがあるかもと思って、朝から何度も歯を磨きました」（中田）、「撮影は一日だけだったんですけど、綾乃彩さんが本当のお姉ちゃんのように思えました」（福永）、「リンコとトモミと3人でお菓子を食べてしゃべるシーンが、現場で急にフラダンスを踊りながらしゃべるシーンに変わって、焦りました」（篠原）、「トモミの部屋のシーンがあったんですけど、部屋のカーテンやベッドなどの色は、自分で決めさせてもらったんです」（亀田）、「イサムさんとの恋がなかなか進まないって役だったんですけど、気持ちに役に入り込んでしまって、『イサムさん、なんでもっとちゃんとやってくれないんだ』って、気持ちがモヤモヤしていたのを覚えています」（加藤）など、各出演者から、撮影当時の心境や裏話が語られた。

イサム役の田村は、「撮影の合間に、部屋のセットの布団にくるまって寝たり、食事のシーンでは本当に綾乃さんの作った手料理を食べたり、実際にそこで生活しているついでに撮ったという感じなので、その雰囲気が出てたらいいなと思います」と、撮影の様子を振り返る。まつむら監督も「僕の映画は生活感をすごく大事にしているので、特に大きな事件も起きないですし、生活の中で湧き上がってくる感情の機微みたいなのを撮りたいと思っています。料理に関しても、絶対に雰囲気は画に映るものだから、綾乃さん本人に作ってもらうようお願いしました」と、作品づくりのこだわりを明かした。

劇中のすべてのシーンに出演している綾乃は、いちばん撮影に時間のかかったシーンとして「リンコとイサムが食事をしながらケンカをするシーン」を挙げ、「実は、テーブルのすぐ横に押入れがあって、その中に監督が入っていて、至近距離でじーっと私たちの芝居を観てるんです。撮影に入るまでのリハーサルに4時間、本番が3時間、合計7時間ぐらい、ずっと監督は押入れの中に居続けて（笑）。大変だったシーンでもあるんですけど、自分がより役になりきれた瞬間でもあったので、すごく思い出深いシーンでした」と、撮影時の苦労を思い返した。

「今日はもう一人（鮎川桃果）来てないんですけど、ほぼキャスト全員で公開初日を迎えられて、こんなに立見のお客様まで来てくださって、ほんとに幸せいっぱいです」と綾乃が会場の観客に、あらためて感謝の気持ちを伝える。まつむら監督は「撮影が終わって、編集とかもプロデューサーや別のスタッフとやって、どこかで、『自分がこの映画を作ったんだ』と思っちゃっていた節があったんですけど、こうやって久しぶりにキャストの皆さんと会うと、ちゃんと出演者も含めて全員で一生懸命作った映画なんだなと、あらためて幸せを感じます」と、出演者に対して敬意を表した。

「恋とさよならとハワイ」初日舞台挨拶は、こうして、涙あり笑いありの和やかな雰囲気のまま幕を閉じた。

4/15(土)～21(金)まで、シネマート新宿でレイトショー公開。5月には、ドイツ・フランクフルトで行われる世界最大級の日本映画の祭典「Nippon Connection」への正式出品が決まっている。今後は、国内外での公開も随時行われる予定だ。